

超高齢社会到来に際する，情報格差拡大に関する諸
問題への対策システム（実習の進捗発表）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-05-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中山, 匡太, 山口, 尚紀, 酒匂, 日菜乃, 大門, 汰斗 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00026602

超高齢社会到来に際する、情報格差拡大に関する諸問題への対策システム

中山匡太，山口尚紀，酒匂日菜乃（情報科学科），大門汰斗（情報社会学科）

十年後に確実にやってくる高齢者の更なる増加という問題に対し、情報学の観点から独自の対策を提案することを目的として本調査を行なった。

調査の結果、現在、ウェアラブルコンピューターの活用技術に関する研究や、IoT に関する情報科学システムと社会基盤システムの構築が進められている一方で、高齢者の多くが情報機器に抵抗や忌避欲を感じていることが明らかになった。

これを踏まえ、私たちは、情報通信技術の高度化に反し、「十年後のデジタル・デバイドの拡大」という問題が発起していくのではとないかと予測した。また、それによって引き起こされうる諸問題への対策のため、高齢者が違和感や扱いにくさを覚えない情報通信端末の開発が重要になると考えた。

結論として、私たちは、「インターネット+ゴーグル型ウェアラブルコンピューター+街中に置かれたパブリックセンサー、の三つによる相互連携システム」という、新たな IoT に関する応用技術の開発を提案する。社会の中に組み込まれた様々な IT 技術に関する情報を、高齢者にも触れやすい視覚・音声データとして取り扱えるようにするためのシステムである。

このシステムの構築が、超高齢社会の到来に対抗する情報学の答えの一つになっていくと考える。

(学習マネジメント・3クラス)